

学位論文審査の結果の要旨（課程）

学位論文審査申請者氏名	遠藤 友彦
学位論文名	栃木県八溝山地域のイノシシ(<i>Sus scrofa</i>)個体群における足くりわなの捕獲特性に関する研究

学位論文審査終了年月日	学位論文審査の結果
令和 3 年 6 月 22 日	合 格 ・ 不 合 格

学位論文審査の結果の要旨は次ページ以降（別紙記載要領により作成のこと。）

学位 論文 審査 委員	主査（自署） 小笠原 勝	副査 小寺 祐二
	小池 伸介	小林 浩幸
	安江 健	

※平成 30 年 10 月入学 生物生産科学専攻 生物制御科学大講座		
学位論文審査申請	令和 3 年 5 月 27 日	
学位論文審査委員の選出	令和 3 年 6 月 7 日	
学位授与の可否の議決（可・否）	令和 3 年 8 月 2 日	

学位論文審査の結果の要旨

遠藤友彦

近年、イノシシの農業被害が急増し、個体群管理のための効率的な捕獲技術の構築が喫緊の課題になっている。本研究は、銃や箱わなに比べて簡便な捕獲手法である「足くくりわな」に焦点を絞り、足くくりわなで捕獲されるイノシシの特徴と捕獲要因を、同手法によって栃木県八溝山地域で2014年から2018年かけて捕獲された850頭のイノシシを対象に、性、年齢、行動様式などから解析したものである。

その結果、足くくりわなでは、成獣よりも幼獣（0歳群）が捕獲し難く、成獣については、メスよりもオスが捕獲されやすいことが判明した。足くくりわなの作動荷重と年齢別のイノシシの体重から、幼獣では、体重が軽いために罠が作動せず、捕獲され難かったもの考えられる。また、GPSを用いた行動調査により、オスの成獣はメスの成獣よりも広範囲に移動することが明らかになり、わなを一定のエリアにランダムに設置した場合、わなへの遭遇頻度はメスよりオスで高まり、その結果、オスの捕獲率が上がったものと考えられる。これらの知見は足くくりわなを用いたイノシシ個体群の効率的な捕獲技術の構築に大きく貢献するものと期待される。

以上のように、本論文は、多くの知見を有すること、論文の内容、構成および好評論文数などから、本学位論文審査会は、全員一致して、本論文が博士（農学）の学位論文として十分価値あるものと判断し、合格と判定した。